

大野市(北陸・中部ブロック)

【2期 計画期間 25年4月～30年3月】

- ・越前大野城がそびえる亀山の東麓に拓けた400年以上続く城下町
- ・古くから越前と美濃を結ぶ「美濃街道」沿いに商店が集積し、七間通りでは「七間朝市」が開催されるなど発展
- ・道路や鉄道が整備される中、城下町誕生時の町割りが残るエリアに事業所等が集積し、現在の中心市街地を形成

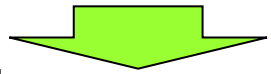
【1期計画の概要】

○「人が集う、活気に城下町の再生」を目指し、交流人口の増加を目的に観光客や市民を誘導する施設の整備や、市民向け便利施設の集約等により、中心市街地の活性化を図るため1期計画を実施。(H20～H24年度)

【中心市街地の変化】

○越前おおの結ステーションの整備や効果的な情報発信等により中心市街地に訪れやすい環境が整備され、まちなか観光による交流人口は増加。
一方、回遊性が乏しく、効果がみられるエリアは限定的であり、事業所数は引き続き減少するなど民間投資を誘発するまでに至っていない。

○今後は、歴史あるまちの魅力を更に高め、回遊性の向上を目指す。また、地域のブランド力を高め、まちが潤う仕掛けづくりや高齢化の進展を踏まえた暮らしやすい環境を構築。



【目指す中心市街地像】

○**原点への回帰 ～人が集う、活気に満ちた城下町の再生を目指して～**

- まちなか観光による交流人口の増加を目指す。
⇒ 主要事業：「歴史的建造物保存整備事業」、「亀山公園整備事業」、「観光まちなみ魅力アップ事業」、他
- 商店街を中心としたまちなか生活の充実を目指す。
⇒ 主要事業：「中心市街地商店街賑わい集客施設整備事(仮称)」、「新にぎわい商業ゾーン形成事業」、他
- 豊かな暮らしを支える公共交通の実現を目指す。
⇒ 主要事業：「六間通りの整備」、「市内路線バス等運行事業」、他

【1期計画の数値目標】

目標	指標	基準値 (H19)	目標値 (H24)	最新値 (H23)
まちなか観光による交流人口の増加	観光入込客数 (5施設)	80,234人	100,000人	136,093人
商店街を中心としたまちなか生活の充実	歩行者通行量 (休日・年1回)	2,001人	2,400人	2,172人

【2期計画の数値目標】

目標	指標	現況値 (H23)	目標値 (H29)
まちなか観光による交流人口の増加	観光入込客数 (4施設) 変更	136,093人	144,000人
商店街を中心としたまちなか生活の充実	歩行者通行量 (休日・年2回合計) 変更	4,907人	6,000人
豊かな暮らしを支える公共交通の実現	循環バス・乗合タクシー利用者数 新規	28,685人	30,500人

大野市中心市街地活性化基本計画の事業概要

多彩な交流で賑わうまち

⑥歴史的建造物保存整備事業



現況

大野藩家老、田村又左衛門家屋敷の保存整備・公開を実施

⑦亀山公園整備事業

⑧歴史の道再生事業

美濃街道沿いの商店街に提灯を設置し、城下町の景観を形成



整備後のイメージ

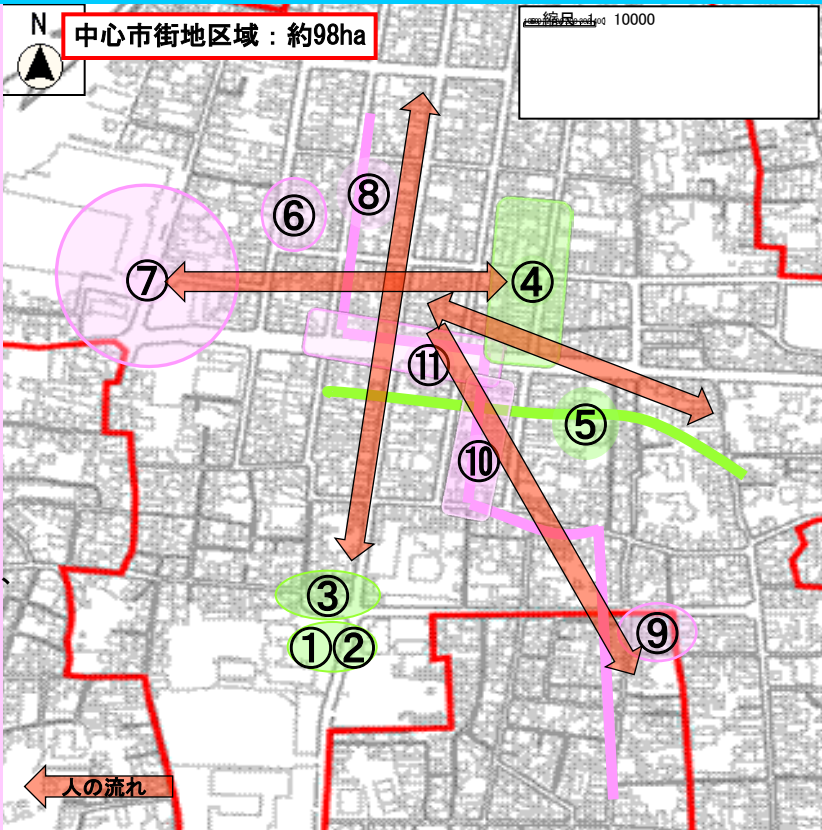
⑩高校生によるチャレンジショップ (新にぎわい商業ゾーン形成事業)

大型空き店舗を活用した、高校生によるチャレンジショップと高齢者交流スペース等



◎観光まちなみ魅力アップ事業

「美濃街道」や歴史をテーマにソフト事業を展開し、歴史あるまちなかの魅力を活かし回遊性を向上



⑨良縁の樹活用事業

⑪中心市街地商店街賑わい 集客施設整備事業



現況

まちづくり会社が中心市街地の空き地を活用し、不足しているカフェ等を整備。

暮らしやすく便利なまち

①新庁舎整備事業 ②市民ホール整備事業



新庁舎及び市民ホール整備後のイメージ



「市民が集い、憩い、学ぶ」を基本理念に、市民ホールを設けた新庁舎を整備

③城下町南広場整備事業(仮称)等



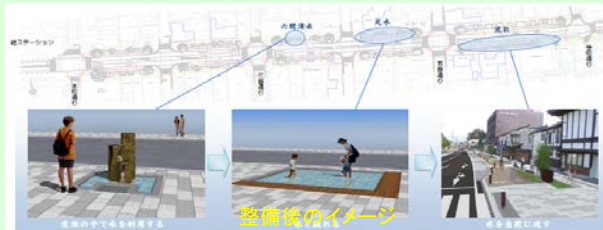
整備後のイメージ

防災機能を備えた多目的広場等を整備

④街なみ環境整備事業(七間、五番、寺町地区) 城下町のまちなみに調和する建築物の設置を推進(新築、改築等を支援)

⑤六間通り整備/バス停留所整備

無電柱化、バス停、親水空間、歩道の拡幅等の整備を行い、景観の向上と名水のまちを感じられる空間を形成



整備後のイメージ



整備後のイメージ

◎市内路線バス等運行事業

まちなか循環バス、乗合タクシーを運行し、移動制約者等の通院や買物の機会を創出